

平成30年度の努力目標

1. 創意工夫に満ちた特色ある学校づくりと開かれた信頼される学校づくり

- (1) 主体性と創意工夫による質の高い学校（園）運営を図り、同時に地域や保護者の協力・支援体制の促進に努める。
- (2) 学校（園）の教育方針・教育活動・数値目標等について積極的に家庭や地域に情報発信をする。
- (3) 学校評価システムの一層の活用を図り、自己点検・自己評価を実施し学校（園）運営の改善に努める。
- (4) 異校種間の教育の相互理解、連携と望ましい接続を図るため、学校（園）の実態に応じた連携のあり方を工夫し、推進する。
- (5) 保護者や地域の方々とのコミュニケーションを大切に、「あいさつ運動」を徹底すると共に、町・地域ぐるみの学校安全対策を充実する。
- (6) 将来発生すると想定されている南海地震に備え、地震や津波、火災などについて学習したり、藍住町防災計画を基に、各学校（園）で避難訓練を定期的実施するなど、防災教育の徹底を図る。

2. 「確かな学力」・「豊かな心」・「健やかな身体」を育む教育の推進

- (1) 子ども一人一人に応じたきめ細かな指導を展開し、基礎・基本を確実に定着させると共に、自ら学び考える力を育成し、志と豊かな心や健やかな身体を育み「人間力」を高める。
- (2) 学校（園）・家庭・地域が連携し、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）・運動習慣の確立や規律を重んじ、子どもの「学ぶ意欲と学力」の向上をさらに推進する。
- (3) 教職員の研修を推進し「教師の力量」を高め、「学校（園）教育」の充実と活性化を図る。
- (4) 人権教育の充実を図り、同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決に努める。
- (5) 学校（園）における「いじめ」や「不登校」の減少に引き続き努力する。
そのための一方法として、「予防教育」の実践を継続する。

(6) 「藍住町子ども読書活動推進計画」による子どもの学習環境の充実に努め、読書活動の一層の進展を図る。

(7) グローバル化社会に生きる日本人としての自覚と、コミュニケーション能力を育てるために、幼稚園から英語に親しむ環境を整える。

(8) 特別支援教育において、一人一人のニーズにあった指導法の工夫改善を図り、教育全体の中で実践的取り組みを進め、更なる深化に努める。

(9) 園児・児童・生徒の発達段階に応じた勤労観・職業観の育成に努める。

(10) 地域・家庭と連携し、食習慣の改善や地産・地消の推進に努め、子どもの食育の充実に努める。

(11) 携帯電話・スマホ・インターネットでのトラブルを避けるために、必要な知識を身につけると共に、家庭との連携を深め、情報モラルの一層の向上を図る。

3. 社会教育の推進と充実

(1) 町民一人一人の人権が尊重される町づくりをめざし、あらゆる差別、偏見を解消するための人権教育・啓発に関する施策を推進する。

(2) 生涯にわたる学習と健康づくりを促進するため、地域の特性を活かしつつ広くその機会の充実・拡充を図る。

(3) 教育の原点である「家庭」を支援し、子どもの心の底の底にまで届く「深い愛情」と、子どもの社会性涵養の基礎となる「規範意識」の両面を、保護者が大切にする気運を高める。

(4) 子どもの成長にとって重要な役割を担う「地域の教育力」の向上を図る。

(5) 町の歴史的・文化的遺産である「勝瑞城館跡」（含む「正貴寺跡」）並びに「藍の館」等の価値を再評価し、時代に合致した方法で最大限顕彰・活用すると共に、独自性と魅力溢れる藍住町の文化を創造・発信し、心豊かな町民文化の振興に努める。

(6) 子どもから高齢者まで一人一人の状況に応じて、体を鍛えスポーツに親しめるよう、体育・スポーツの振興を図る。その一助として、パークゴルフ等ニュースポーツの普及や町民体育館の一層の活用を図る。